



夏から一気に冬になったような気がします。とはいえ季節は読書の秋。みなさんはいつ読書をしていますか？

記憶に残る本に巡り会えましたか

私は出張時に電車やバスの中で読書をします。この時間は誰からも束縛されない時間ですから、やりたいことに集中できます。その上、不思議なものでアイデアも湧きやすいと感じています。そのため、東京方面への出張も飛行機は利用しません。寝台列車や新幹線を利用して意図的に時間をつくりこれまでも有効活用してきました。

高校生のみなさんなら、通学時の列車内や休憩時間のわずかな時間に読書をしていることと思います。短時間の読書は「到着までに！」「休憩が終わるまでに！」と、「ここまでは読みたい！」という気持ちが高まり、読む速度も上がり意外にたくさん読んでいることがありますよね。そして、少しずつ読み進めていくことで、著者が述べたいことや新たに得た情報を繰り返し考えることができ、より深い理解につながり、自分の考えに反映させることも多くなると思います。

さて、本を読むといろいろな人の考え方を知ることができます。それぞれの本の著者は自身の考えを長い時間をかけて構築しています。また、さまざまな実験や観察をとおして考え方を導き出していることもあります。このように長い時間をかけなければ構築できないことを、私たちは読書によってわずかな時間で得ることができます。これは何倍もの年月を生きているのと同じくらいの価値があり、みなさんの生き方に大きな影響を与えてくれることでしょう。

また、同じテーマでも著者によって考え方に違いがあります。いろいろな本を読んで様々な方向から考えてみることで自分の考え方にも変化が生まれます。何もしなければ変化はありません。考え方に変化がないのは揺るぎない自分の考え方があるようにも見えますが、多様な考え方を受け入れることができなかつたり自分の思い込みに気がつかないことも多分にあるのではないのでしょうか。

小説や自叙伝を読めば、心はその時代や地域へ瞬間移動し、登場人物に自分を重ね、自分ならどうするのだろうと自分事に置き換えてみることで、普段気がつかなかった自分の一面に気づいたり、架空の世界であるがままに生きる本来の自分を感じることができます。



みなさんは記憶に残る本に巡り会えましたか？米工図書タイムズで先生方や生徒のみなさんがお薦めする本が図書館に展示されています。ワクワクした感動をみなさんも共有してみませんか。私は高校生の時に井上ひさしさんの「吉里吉里人」という本にワクワクしたことを覚えています。東北の小さな村が突如「吉里吉里国」を名乗り独立を宣言するのです。国を創ることは、ものをつくることに通じる部分があったからでしょうか。このときは頭の中からしばらく東北弁が抜けなくなっていました。今でもこの本は大切に持っています。

校長 松川 明義